

整理番号	ペイントシェイブ	作成日	2009年1月21日
3660-04	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年2月16日

Ver. 11. 05

# 安全データシート (SDS)

## 1. 製品及び会社情報

製品名	ペイントシェイブ
製品コード	3660
会社名	横浜油脂工業株式会社
住所	横浜市西区南浅間町 1-1
担当部門	技術開発部
担当者	奈須 光
電話番号	045-311-4701
FAX番号	0463-89-1330
緊急連絡の電話番号	045-311-4704
奨励用途及び使用上の制限	ペイント除去用ハンドクリーナー
作成日	2009年1月21日
改正日	2016年2月16日
整理番号	3660-04

## 2. 危険有害性の要約

### GHS分類

GHS分類非該当

化粧品

## 3. 組成、成分情報

- 化学物質 ・ 混合物の区別  
 ・ 混合物

成分名/化学名	含有量 (wt%)	CAS No.	化審法
ベンジルアルコール	非公開	非公開	非公開
水	非公開	7732-18-5	—
メトキシメチルブタノール	非公開	非公開	非公開
シリカ	非公開	7631-86-9	(1)-548
ポリエチレン	非公開	非公開	非公開
PG	非公開	非公開	非公開
ラウレスー7	非公開	非公開	非公開
水添ポリイソブテン	非公開	非公開	非公開
(アクリル酸/アクリル酸アルキル (C10-30)) コポリマー	非公開	非公開	非公開
ジエチルヘキシルアミン	非公開	非公開	非公開
BHT	非公開	128-37-0	3-540
オキシベンゾン-3	非公開	非公開	非公開
メチルクロロイソチアゾリノン	非公開	非公開	非公開
メチルイソチアゾリノン	非公開	非公開	非公開
アルニカ花エキス	非公開	非公開	非公開
キュウリ果実エキス	非公開	非公開	非公開
セイヨウキズタ葉/茎エキス	非公開	非公開	非公開
ゼニアオイ花エキス	非公開	非公開	非公開
パリエタリアエキス	非公開	非公開	非公開
セイヨウニワトコ花エキス	非公開	非公開	非公開
香料	非公開	非公開	非公開
黄203	非公開	非公開	非公開

### PRTR法報告物質

PRTRに該当する。

制令番号 物質名

1種407 ホリ(オキシエチレン)=アルキルエーテル(R=C12-C15)

含有量

4.9%

整理番号	ペイントシェイブ	作成日	2009年1月21日
3660-04	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年2月16日

Ver. 11.05

#### 毒物及び劇物取締法

非該当 該当物質は含有しない

#### 労働安全衛生法

通知物質：法第57条の2、施行令18条の2別表第9 名称等を通知すべき有害物質

制令番号	物質名	含有量
312	シカ	11%

#### 有機溶剤中毒予防規則

非該当 該当物質は含有しない。

## 4. 応急処置

### 大量に吸入した場合

- ・吸入をして気分の悪くなった場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・気分の戻らない時は、医師の診断を受けること。
- ・呼吸していて嘔吐がある場合は頭を横向きにする。
- ・呼吸が弱い場合は人工呼吸や酸素吸入を行う。
- ・上記症状が出た場合、直ちに医師の診断を受けること。

### 皮膚に付着した場合

- ・水で洗い流し、液が付着したところをよく洗うこと。
- ・直ちに、汚染された衣類をすべて取り除くこと。皮膚を流水で洗うこと。
- ・気分が悪くなった場合は、医師の診断を受けること。
- ・皮膚刺激または手荒れや発疹・水泡などが生じた場合は、直ちに医師の診断を受けること。
- ・衣服等に付着した場合は、脱いで皮膚の付着した部分を十分に洗い流す。
- ・汚染した衣類を再使用する場合は洗濯してから使用すること。

### 目に入った場合

- ・清浄な水で最低15分間目を洗浄する。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄する。
- ・コンタクトレンズを使用している場合は、固着していないかぎり、取り除いて洗浄を続ける。
- ・洗浄後、医師の診断を受けること。
- ・激しい痛みがある場合は、直ちに医師の診断を受けること。

### 飲み込んだ場合

- ・直ちに水で口の中を洗浄する。
- ・直ちに医師の診断を受けること。
- ・無理に吐かせないこと。
- ・子供などが飲み込んだ懸念がある場合、直ちに医師の診断を受けること。

### 最も重要な兆候及び症状

- ・特になし

### 応急措置をする者の保護

- ・特になし

### 医師に対する特別注意事項

- ・特になし

## 5. 火災時の措置

### 消火剤

- ・初期火災には、粉末、二酸化炭素、乾燥砂などを用いる。
- ・大規模火災には、泡消火剤を用いて空気を遮断する。

### 特有の消火方法

- ・消火作業は、可能な限り風上から行なう。
- ・関係者以外は安全な場所に退去させる。
- ・周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
- ・火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
- ・周囲の設備などの輻射熱による温度上昇を防止するため、水スプレーにより周辺を冷却する。
- ・消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。

### 消火を行う者の保護

- ・消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。
- ・消火活動は風上から行い、有毒なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。

整理番号	ペイントシェイブ	作成日	2009年1月21日
3660-04	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年2月16日

Ver. 11. 05

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ・ 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
- ・ 漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。
- ・ 漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する
- ・ 作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。
- ・ 風上から作業し、風下の人を退避させる。
- ・ 着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。
- ・ こぼれた場所はすべりやすいために注意する。

### 環境に対する注意事項

- ・ 流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

#### 回収、中和

- ・ 少量の場合は、吸着剤(おがくず・土・砂・ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取り、密閉できる空容器に回収する。
- ・ 大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。
- ・ 回収後の少量の残留分は土砂またはおがくず等に吸収させる。
- ・ 付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置する。

#### 二次災害の防止法

- ・ 漏出時は事故の未然防止および拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

- ・ 製品記載の使用上の注意を良く読み、用途以外に使用しないこと。
- ・ 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- ・ 取扱いは、屋外または換気のよい場所で行う。

### 保管

#### 安全な保管条件

- ・ 製品記載の保管条件を読み、適切に保管すること。
- ・ 容器を密栓すること。
- ・ 日光から遮断し、40℃を超える温度に暴露しないこと。

#### 安全な容器包装材料

- ・ 特になし

## 8. 暴露防止及び保護措置

### 設備対策

- ・ 蒸気または煙やミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。

記載の無いもの、また「-」は、知見なし、あるいはデータなし

成分名／化学名	管理濃度	許容濃度
シリカ	-	日本産衛学会(2005)総粉じん 8 mg/m <sup>3</sup> 吸入性粉じん 2 mg/m <sup>3</sup> ACGIH(2005)TLV-TWA : 10mg/m <sup>3</sup>
(アクリル酸／アクリル酸アルキル(C10-30))コポリマー	-	0.05mg/m <sup>3</sup> (TWA)
BHT	設定されていない。	第3種粉塵(その他の無機及び有機粉塵)として吸入性粉塵; 2mg/m <sup>3</sup> 、総粉塵; 8mg/m <sup>3</sup> (2010年度版)(日本産業衛生学会)、TLV-TWA 2mg/m <sup>3</sup> (inhalable fraction and vapor)(2010年度版)(ACGIH)

整理番号	ペイントシェイブ	作成日	2009年1月21日
3660-04	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年2月16日

Ver. 11.05

## 保護具

### 呼吸器の保護具

- ・必要に応じて保護マスク等を着用する。（防塵マスク、防毒マスク、有機溶剤用の防毒マスク等）

### 目の保護具

- ・保護眼鏡（普通眼鏡型）、必要に応じて、ゴーグル型、保護面等を着用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

外観	: 黄色粘性液体
臭い	: 香料臭
臭いのしきい値	: データなし
pH	: 6.7
融点/凝固点	: データなし
沸点、初留点と沸騰範囲	: データなし
引火点	: なし
自然発火温度(発火点)	: データなし
燃焼性(固体、気体)	: データなし
燃焼又は爆発範囲下限、上限	: データなし
蒸気圧	: データなし
蒸気密度	: データなし
蒸発速度	: データなし
比重	: 1.06
溶解性	: 水に一部溶解
オクタノール/水分配係数	: データなし
分解温度	: データなし
粘度(粘性率)	: データなし
その他のデータ	: データなし

## 10. 安定性及び反応性

### 反応性

#### 化学的安定性

- ・通常の手扱においては安定である。

#### 危険有害反応性の可能性

- ・特になし

#### 避けるべき条件

- ・特になし

#### 混触危険性物質

- ・特になし

#### 危険有害な分解生成物

- ・特になし

#### その他

- ・特になし

## 11. 有害性情報

個々の成分の有害性情報：記載の無いものは、GHS分類でカットオフ値以下であるもの、知見なし、あるいはデータなしの成分

### ・ベンジルアルコール

#### 《急性毒性》

経口LD50(ラット) 1230-1580mg/kg

吸入LC50(ラット) 1000ppm(8-h) 経皮LD50(ラット) 1700mg/kg

腹腔内LD50(ラット) 400mg/kg

静脈内LD50(ラット) 64mg/kg

静脈内LD50(マウス) 324mg/kg

#### 《皮膚腐食性/刺激性》

刺激性:ウサギの眼へ750ugを適用した実験では強度の刺激性が認められている。

#### 《生殖細胞変異原性》

In vivo 8週齢ddyマウス、単回腹腔内投与において小核の誘発は認められない。

整理番号	ペイントシェイブ	作成日	2009年1月21日
3660-04	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年2月16日

Ver. 11. 05

・ メトキシメチルブタノール

《急性毒性》

ラット経口 LD50 4.30g/Kg  
 マウス経口 LD50 5.83g/Kg  
 マウス経皮 LD50 2000mg/kg以上  
 ラット経皮 LD50 2000mg/Kg以上

《皮膚腐食性/刺激性》

一時皮膚刺激性試験; PII指数:0.04

《眼に対する重篤な損傷/刺激性》

やや刺激性はあるが、9~10日後には回復する。蒸留水で投与30~60秒後に洗浄すると刺激性は軽減する。

《生殖細胞変異原性》

陰性

《反復毒性》

反復投与吸入毒性試験; 内蔵の病理学上、組織学上、機能上の検査で、著しい変化を認めず。肝臓GOT及び腎臓の重量の若干の増加が見られたが、その他の検査では何らの異常も認められなかった。(ラット/500ppm/28日間)

反復投与(28日間)皮膚刺激試験;(100%)PII指数:0.6(slightlyirritat)(50%水溶液)PII指数;0.0

《吸引性呼吸器有害性》

製品の動粘性率(40℃)は、20.5mm<sup>3</sup>/S以下にはならないため区分外

・ シリカ

《急性毒性》

経口:IUCLIDのラットを用いた経口投与試験のLD50値をGHS分類マニュアルに基づいて計算し、>5000 mg/kgとなったので区分外とした。

経皮:IUCLIDのウサギを用いた経皮投与試験のLD50値>5000 mg/kgより区分外とした。

吸入(気体):GHS定義における固体なので分類対象外とした。

吸入(蒸気):常温における蒸気圧は、非常に低い為、分類対象外とした。

吸入(粉じん、ミスト):データなしなので分類できないとした。

《皮膚腐食性/刺激性》

IUCLDのウサギを用いた試験で刺激性なしの判定より区分外とした。

《眼に対する重篤な損傷/刺激性》

IUCLDのウサギを用いた試験で弱い刺激性ありとの記述があるので区分2Bとした。

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

いずれもデータなしなので分類できないとした。

《生殖細胞変異原性》

in vivo 変異原性のマウスの骨髄小核試験が陰性、in vitro実験であるAmes testが陰性であったことから、区分外とした。

《発がん性》

IARCは3であることから区分外とした。

《生殖毒性》

データなしなので分類できないとした。

《標的臓器/全身毒性(単回暴露)》

データなしなので分類できないとした。

《標的臓器/全身毒性(反復暴露)》

データなしなので分類できないとした。

・ ポリエチレン

《急性毒性》

経口:LD50>7950 mg/kg(ラット)

LD50>3000 mg/kg(ラット)

LD50>2500 mg/kg(マウス)

LD50>5000 mg/kg(マウス)

《皮膚腐食性/刺激性》

加熱溶融物の皮膚接触により、火傷を負う可能性がある。

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》

加熱溶融物の眼接触により、火傷を負う可能性がある。

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

呼吸器感作性:吸入暴露により、刺激性を示す可能性がある。

《発がん性》

IARC 3 ヒトに対する発ガン性については分類できない

整理番号	ペイントシェイブ	作成日	2009年1月21日
3660-04	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年2月16日

Ver. 11. 05

・ PG

《急性毒性》

LD50(経口)ラット20,000mg/kg、マウス22,000mg/kg

LD50(経皮)ラット22,500mg/kg、マウス17,400mg/kg

《皮膚腐食性・刺激性》

ヒトへの影響

・ヒトがPGの蒸気に曝露した場合、眼への刺激作用はない。皮膚に直接接触した場合、開放系では刺激作用はないが、密閉系では刺激作用がみられた。

・10～30%溶液の2週間の反復塗布では刺激性を誘発するが、1～10%では刺激性はみられなかった。

動物実験

・モルモット、ウサギ及びミニブタでは皮膚刺激性はなかった。

《眼に対する重篤な損傷・刺激性》

動物実験

・直接点眼した場合、軽度の刺激作用がおおる。50%溶液では眼刺激作用はなかった。

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

・20%水溶液では少数例(1. 5%)に感作性の陽性が報告されたが、研究報告によっては発生率に差があり、1%水溶液でも陽性反応を示すヒトもいる。

《生殖細胞変異原性》

Amse試験:陰性

染色体異常試験(ヒトリンパ球):陰性(IUCLD Release3. 1(2000. 2))

《発がん性》

日本産業衛生学会、ACGIH、IARC、NTPのいずれにも記載なし。

ラット及びイヌの2年間の長期混餌投与試験で腫瘍形性はみられなかった。

ラット及びマウスへの反復皮膚塗布試験でも腫瘍形性はみられなかった。

《生殖毒性》

マウス継代試験で5%のPGを給水投与しても親にも次世代の繁殖および生殖に影響はなかった。

・ ラウレスーフ

《急性毒性》

経口: LD50=1287 mg/Kg(ラット)(区分4)(類似品)

経皮: LD50>2000mg/Kg(ウサギ)(区分5)(類似品)

《皮膚腐食性/刺激性》

中程度の刺激性(ラビット)(OECD法)(区分2)(類似品)

《眼に対する重篤な損傷/眼刺激》

中程度の刺激性(ラビット)(OECD法)(区分2A)(類似品)

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

呼吸器感作性: データなし

皮膚感作性: 感作性なし(モルモット)(区分外)(類似品)

《生殖細胞変異原性》

in vitro試験(復帰突然変異試験、Ames試験、染色体異常試験、不定期DNA試験)・・・陰性

in vivo試験(マウス小核試験)・・・陰性(区分外)(類似品)

《発がん性》

発がん性は陰性(ラット)(区分外)

・ 水添ポリイソブテン

《急性毒性》

経口: LD50 2000 mg/kg以上(限度試験: 蒸留範囲が若干異なる製品の結果)C12-C17のn-isi-パラフィン、シクロアルカンの混合物で5000mg/kg以上のデータあり

《皮膚腐食性・刺激性》

ウサギで中ぐらいの皮膚刺激性 PII=3.7(蒸留範囲が若干異なる製品の結果)

《眼に対する重篤な損傷・眼刺激性》

ウサギで刺激性なし

《生殖細胞変異原性》

データなし。(C10-13を主成分とするn-iso-パラフィン及びシクロアルカンの混合物ではin vitro, in vivoとも陰性)

本製品はC12-C16のiso-パラフィンであり変異原性はないと推定される。

《発がん性》

国際的機関で発ガン性と評価された例はない。

整理番号	ペイントシェイブ	作成日	2009年1月21日
3660-04	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年2月16日

Ver. 11. 05

《生殖毒性》

データなし。(C10-13を主成分とするn-iso-パラフィン及びシクロアルカンの混合物では生殖毒性なし。同属物質であり生殖毒性はないと推定される。)

《特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)》

データなし。(C9-13を主成分とするn-iso-パラフィン及びシクロアルカンの混合物の12週吸入試験でNOAEL=2000mg/m<sup>3</sup>。同属物質でさらに分子量が高いのでこのものよりも毒性は低いと推定される。)

《吸引性呼吸器有害性》

炭化水素で粘度が低いので肺に入ると危険。

・ ジエチルヘキシルアミン

《急性毒性》

経口:LD50(経口):ラット1008mg/kg、1630mg/kg

経皮:LD50(経皮):ウサギ958mg/kg、1190 μL/kg

吸入(粉じん・ミスト):LC50(粉塵/ミスト):ラット0.91mg/L(4H)

《皮膚腐食性/刺激性》

皮膚腐食性有ウサギ

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》

ウサギ 回復不可能な損傷

《生殖細胞変異原性》

in vitro変異原性試験 陰性(Ames試験)

・ BHT

《急性毒性》

経口:ラット 経口 LD50 890mg/kg

マウス 経口 LD50 650mg/kg

経皮:ラット 経皮 LD50 >2000mg/kg

《皮膚腐食性/刺激性》

ウサギに閉塞塗布し軽度の刺激、ウサギの試験で軽度の刺激を示した結果があり、ヒトに対しては軽度の刺激があったとの記載がある。

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》

ウサギの試験で結膜に軽度の炎症が見られ、72 時間後には回復したと記載されている。

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

呼吸器感作性:モルモットのアレルギー性ショック試験でアナフィラキシーは見られなかったとの記載がある。

皮膚感作性:モルモットの試験では陰性の報告があるが、ヒトで感作性が認められたとの記載がある

《発がん性》

IARC においてはグループ3(ヒトに対する発がん性について分類できない)と評価されている。ACGIH においてはA4(ヒトに対して発がん性物質として分類できない)と評価されている。OSHA、NTP、EU、EPA 及び日本産業衛生学会の発がん性物質リストには記載されていない。

《生殖細胞変異原性》

in vivo 試験であるマウスの小核試験、マウス及びラットでの染色(変異原性)体異常試験のいずれも陰性との記載がある。

《生殖毒性》

混餌投与の2 世代試験でFO の高投与群に体重増加と腎臓に影響が見られF1 に体重抑制が見られた。

混餌投与の3世代試験では生殖、発生毒性は認められなかった。妊婦ラットへの投与で生殖毒性は認められなかった報告が2件、1件ある。又、長期投与試験で仔の無眼球症が1例、長期投与試験で仔の小眼球症が3例/30 腹で見られたとの報告があるが、無眼球症が無いという報告もあり、小眼球症の3例の分布が不明であるとしてIARC ではいずれも不十分として採用していない。

《特定標的臓器毒性(単回暴露)》

4g 摂取した女性で、胃痙攣、倦怠感、嘔吐、疲労感、精神障害及び短期間の意識喪失が見られた。又、紅花油に溶解させた80g を摂取した女性で神経症状が見られた記載がある。

《特定標的臓器毒性(反復暴露)》

マウスに混餌投与した試験において、区分2のガイダンス値内の投与量で肺の鬱血、腫大、肺胞上皮細胞の壊死、変性が認められた。ラットの経口投与試験に於いて区分2 のガイダンス値範囲内の投与量で肝臓の相対重量の増加、門脈周囲の壊死、肝細胞腫大が見られた。ラットの投餌与試験に於いて区分2 のガイダンス値範囲内で肝臓の腫大、小葉中心性の肝細胞壊死、グルタチオンの枯渇、トランスアミナーゼ活性の増加、酵素誘導、リン脂質及びコレステロールの増加が見られ、甲状腺のヨード取り込みの増加に伴う腫大が認められた記載がある。

整理番号	ペイントシェイブ	作成日	2009年1月21日
3660-04	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年2月16日

Ver. 11. 05

・ オキシベンゾン—3

《急性毒性》

経口:ラット LD50=7,400mg/kg

・ メチルククロイソチアゾリノン

《急性毒性》

経口:LD50 ラット メス 2,630 mg/kg

LD50 ラット オス 3,350 mg/kg

経皮:LD50 ウサギ > 5,000 mg/kg

吸入(粉じん・ミスト):LC50 ラット 4 h 0.33 mg/l 活性成分

《皮膚腐食性/刺激性》

ウサギ 腐食性

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》

ウサギ 腐食性

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

呼吸器感作性:ギニアピッグ 感作を起こす。

皮膚感作性ギニアピッグ 感作を起こす。

《発がん性》

マウスの皮膚試験及びラットの経口試験のいずれにおいても非発がん性。活性成分

《生殖細胞変異原性》

変異原性ではない 活性成分

《生殖毒性》

この製品は、生殖に関する危険有害性物質ではない。活性成分

《特定標的臓器毒性(単回暴露)》

吸入: 蒸気ないしミストを吸入すると、以下を起こす可能性がある:鼻、喉、肺への刺激

摂取: 飲み込むと有害なことがある。

皮膚: 物質は以下を起こすことがある:皮膚の腐食、火傷皮膚接触により、過敏な人では感作が起こることがある。

眼: 物質は以下を起こすことがある:眼の腐食 永久的な眼の障害を起こすことがある。

## 1 2. 環境影響情報

個々の成分の有害性情報: 記載の無いものは、GHS分類でカットオフ値以下であるもの、知見なし、あるいはデータなしの成分

・ ベンジルアルコール

《水生環境有害性》(急性)

生態毒性データ

藻類(セネデスムス)EC50 640mg/l(96-h)

甲殻類(オオミジンコ)EC50 55mg/l(24-h)

魚類(ブルーギル)LC50 10mg/l(96-h)

魚類(ファットヘッドミノー)LC50 460mg/l(96-h)

濃縮性: 報告なし。

分解性: 良分解(化審法) BOD5:62

移行性: 揮発性有機物質100%

他の情報: オゾン層に影響しない(Conuncil Regulation, EC)

・ メトキシメチルブタノール

《生態毒性》

魚毒性: TLm値: 7,400ppm(ヒメダカ/48時間)

残留性・分解性: 生分解性物質である

生体蓄積性: 蓄積性はなし

土埃中の移動性: データなし

その他: COD: 8,060mg/L(1%水溶液のCOD)

8,020mg/L(エア吹込後のCOD: 1.5リットル/分で16時間通気)

・ P G

《環境影響・生態毒性》

漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取り扱いに注意する。



整理番号	ペイントシェイブ	作成日	2009年1月21日
3660-04	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年2月16日

Ver. 11. 05

《残留性／分解性：易分解性》  
 BOD 1.08g/g、COD(Cr)1.68g/g、COD(Mn)0.72g/g  
 《生態蓄積性》  
 1og Pow -0.92~-1.32BCFは1以下である。

・ ラウレスー7

《残留性／分解性》  
 生分解性97%以上（区分外）（類似品）  
 《生態毒性》  
 魚毒性：96hrLC50=0.48mg/L（ファッドヘッドミノー）（区分1）（類似品）

・ 水添ポリイソブテン

《水性環境有害性（急性）》  
 水に対する溶解性が極めて低く溶解度以下では有害影響はないと推定される。  
 《水性環境有害性（慢性）》  
 C8以上のイソパラフィンは概ね難分解であるが低蓄積性。

・ ジエチルヘキシルアミン

《水生環境有害性》（急性）  
 《生態毒性》  
 NOEC(21D) 甲殻類(オオミジンコ) 0.069 mg/L  
 《水生環境有害性》  
 LC50(96H) 魚類(ウグイ) >1.5- <2.2 mg/L  
 EC50(48H) 甲殻類(オオミジンコ) 2.2 mg/L  
 ErC50(72H or 96H) 藻類(緑藻) 1.55 mg/L  
 《残留性／分解性》  
 生分解性 難分解(OECD301B:CO2発生試験)

・ BHT

《水生環境有害性》（急性）  
 《生態毒性》  
 魚類：ヒメダカ LC50(96h) 1.1mg/L  
 甲殻類：オオミジンコ EC50(48h) 0.84mg/L  
 藻類：セレナストラム ErC50(72h) >7.0mg/L  
 《水性環境有害性》（慢性）  
 《残留性・分解性》  
 難分解性[分解度;4.5%(BOD)]  
 《生体蓄積性》  
 中程度

・ オキシベンゾン-3

《水生環境有害性》（急性）  
 区分2 生態毒性 魚毒性:ヒメダカ LC50(96h) 3.6mg/L

・ メチルククロイソチアゾリノン

《水生環境有害性》（急性）  
 魚類に対する急性毒性  
 LC50 *Oncorhynchus mykiss* (ニジマス) 96 h OECDテストガイドライン203あるいは同等のもの 0.19 mg/l 活性成分  
 LC50 *Lepomis macrochirus* (ブルーギル サンフィッシュ) 96 h OECDテストガイドライン203あるいは同等のもの 0.28 mg/l 活性成分  
 無脊椎動物に対する急性毒性  
 EC50 *Daphnia magna* 48 h FIFRA 77-2 0.16 mg/l 活性成分  
 EC50 *Daphnia magna* (オオミジンコ) 48 h OECDテストガイドライン202あるいは同等のもの 0.126 mg/l  
 藻類に対する急性毒性  
 EC50 *Pseudokirchneriella subcapitata* (緑藻) 72 h OECD 試験ガイドライン 201 0.003 mg/l 活性成分  
 ErC50 藻類 (*Selenastrum capricornutum*) 72 h OECD 試験ガイドライン 201 0.003 mg/l 活性成分

オゾン層への有害性： データなし

### 13. 廃棄上の注意

- ・ 内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

整理番号	ペイントシェイブ	作成日	2009年1月21日
3660-04	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年2月16日

Ver. 11. 05

#### 14. 輸送上の注意

##### 国際規制：

##### 国連分類

該当しない

##### 国連番号

該当しない

容器等級： 該当しない

海洋汚染物質： 非該当

##### 国内規制：

##### 容器イエローラベル

該当しない

##### 輸送の特定の安全対策及び条件

- ・ 容器の破損、漏れがないことをたしかめる。
- ・ 荷くずれ防止を確実にを行う。
- ・ 該当法令に従い、包装、表示、輸送を行う。
- ・ 直射日光を避ける。
- ・ 水漏れ厳禁。
- ・ 横積み厳禁。
- ・ 夏場の輸送時においては、熱い鉄板、地面等の上に直接置かないこと。
- ・ 輸送容器は衝撃を与えないように、ていねいに取扱う。転倒したり、激突させたりしない。

#### 15. 適用法令

##### 火薬類取締法：

対象外

##### 高圧ガス保安法：

対象外

##### 消防法： ( ) 内は、指定数量

非危険物(消防法上の非危険物)

不燃物である

##### 毒物及び劇物取締法(毒劇物取締法)：

非該当(該当物質は含有しない、詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

##### 労働安全衛生法：

通知対象物質を含有する。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

##### 労働安全衛生法(有機溶剤中毒予防規則)：

非該当 該当成分を含有しない。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

##### 労働安全衛生法(危険物)：

非該当

##### 特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法 (PRTR法)：

PRTRに該当する。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

#### 16. その他の情報(参考文献等)

GHSに基づく化学物質等の分類方法 JIS Z7252:2009

GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)  
JIS Z7253:2012

GHS分類結果データベース (独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ)

中央労働災害防止協会安全衛生情報センターホームページ

JACA(日本オートケミカル工業会)編集:化学物質管理データベース

オートケミカル製品のための製品安全データシート作成指針改訂版 (日本オートケミカル工業会)

危険物船舶運送及び貯蔵規則 (海文堂)

##### ※注意

安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取り扱い事業者へ提供されるものです。取り扱い事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。